加須市

令和7年度版

地震 ハザードマップ

保存版

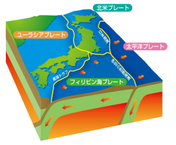
地震から
自分を、家族を、地域をまもるために!

日ごろの備えが大切です。
家具の転倒防止や備蓄をしましょう!
災害時にはみんなで助け合いましょう!

地震のメカニズム

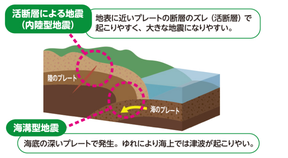
日本を取り巻く4つのプレート

日本では、海のプレート（太平洋・フィリピン海）が、陸のプレート（北米・ユーラシア）の下へ動いて、沈み込んでいます。
この4つのプレートの動きによって、日本は世界でも有数の地震が多い国となっています。



地震が発生するしくみ

海のプレートは陸のプレートより重いため、その下に入り込みます。この圧力によって各プレートにひずみがたまり、それが限界に達すると、亀裂が入ってずれたり、はね上がったりします。この大きな動きが地震です。



震度とマグニチュード

マグニチュードとは？

マグニチュード（以下 M と表記）は、地震の規模を表す単位です。
関東大震災は M7.9、阪神・淡路大震災は M7.3、東日本大震災は M9.0（日本観測史上最大）でした。

震度とは？

震度は地震の際の各地点の揺れの大きさを表します。ある地点が実際にどう揺れるかは、地震のエネルギー規模だけではなく、震源からその地点までの距離、地盤条件等に左右されます。

震度とマグニチュードの関係

地震の規模が同じマグニチュードだとしても、地震が発生した地点（震源）から離れるほど、揺れ（震度）が小さくなります。
逆に震源に近いと、マグニチュードが小さくても震度が大きくなりまず。

震度階級と想定される被害

震度 4
ほとんどの人が驚く。
電灯などの吊り下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。
自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。

震度 5 弱
棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。
まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。
電柱が揺れるのがわかる。

震度 5 強
物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
固定していない家具が倒れることがある。
自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
補強されていないブロック塀が、崩れることがある。

震度 6 弱
立っていることが困難になる。
壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
耐震性の低い木造住宅では、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度 6 強
はわないと動くことができない。
固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
耐震性の高い木造住宅でも、壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。

震度 7
揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。
固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。
耐震性の高い木造住宅でも、まれに傾くことがある。
耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

震災時の注意点

地震発生その時どうする?

あわててむやみに行動するとかえって危険です。テレビ、ラジオなどの報道で正しい情報を入手し、冷静に状況を判断して的確な避難行動をしましょう。

まず身の安全を

頭を保護し丈夫な机の下などに身を隠します。
家具の転倒や落下物には十分注意します。

自動車運転中は

ハザードランプを点灯し、周りの車に注意を促します。急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とし、道路の左によせて停車します。
車から離れるときは、カギをつけて、ロックせずに避難しましょう。

鉄道・バスでは

つり革、手すりにしっかりつかまります。
勝手に車外に飛び出さず、乗務員の指示に従いましょう。

エレベーターでは

ただちに全ての階のボタンを押し、停止した階ですぐに降ります。
万一閉じ込められたら、エレベーター内部の状態をインターホンで通報しましょう。

避難する前に

あらかじめ避難場所等を確認しておき、避難する前にガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とします。
また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。

避難時の注意

塀ぎわ、狭い道、がけや川のそばは避けて避難しましょう。余震に注意し、落下物やガラス片、自動販売機などにも気をつけ、垂れ下がった電線には触れないようにしましょう。

火災が発生したら…

隣近所に声をかけ、初期消火に努めましょう。

すぐに大声で知らせる → **おちついて早く消火する** → **あわてず早く逃げる**

火災を発見したら、周りの人に大声で知らせましょう。119番通報するか、近くの人に通報を頼みましょう。

水や消火器のほか、座布団で叩く、布団を被せて密閉するなどして、消火にあたりましょう。

出火から3分が自力で消火できる限界です。火が天井に燃え移ったら消火を諦め、速やかに避難を。

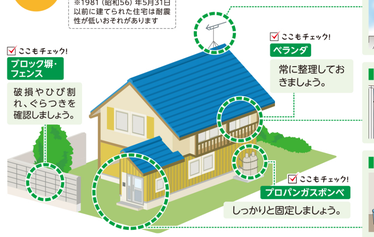
わが家の安全チェック

屋外・屋内の点検ポイント

建物やその周りにあるもの、家の中の家具やガラスなど地震に対する安全性についてチェックし、補強や配置換えなどを行っておきましょう。

屋外

住宅の耐震性に不安がある場合は耐震診断※を行い、補強などを実施しましょう。
※1981（昭和56）年5月31日以前に建てられた住宅は耐震性が低いおそれがあります



屋根・アンテナ
屋根にひび割れ、ずれ、はがれがあれば補強しましょう。アンテナのぐらつきを確認しましょう。

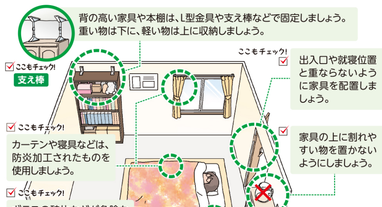
窓ガラス
飛散防止フィルムを貼りましょう。

玄関まわり
避難しやすいように常に整理しておきましょう。

集合住宅での安全対策
非常扉 扉前には、危険物や避難の妨げになるようなものは置かないでください。
防災設備 通路などに設置されている防災設備（消火器や火災報知機など）の場所を日ごろから確認しておきましょう。

屋内

地震時のケガの原因は家具などの転倒によるものも多く、室内の散乱は逃げ遅れの原因にもつながります。
家具の配置や固定具合を見直し、安全対策に努めましょう。



冷蔵庫
ベルト式ストッパーなどで固定しましょう。

テレビ・パソコン
低い位置に置き、耐震粘着マットなどで固定しましょう。

暖房機器
周囲に燃えやすい物を置かないようにしましょう。

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷きましょう。扉にはストッパーを、ガラスには飛散防止フィルムを貼りましょう。

防災情報の集め方

加須市防災アプリ

アプリでは、防災行政無線の放送内容や避難場所、ハザードマップなどがいつでも確認できます。

【利用方法】GooglePlayまたはAppStoreからインストール

かぞ防災

GooglePlay　AppStore

報道機関

地震情報、避難所の開設状況等はテレビ・ラジオ・インターネットなどを通じても確認することができます。
また、テレビのデータ放送でも情報の入手が可能です。
データ放送を視聴するにはテレビリモコンの「dボタン」を押してください。

防災情報メール

携帯電話やパソコンのメール機能を利用して、防災情報をお届けするサービスを実施しています。
右記メールアドレスまたは QR コードへ空メールを送り、返信メールの指示に従って登録してください。
※登録は無料ですが、登録や解除の際の通信料やパケット通信費は、利用者の負担となります。

かぞホッとメール 安全安心情報　kazo.anzen2@mpme.jp

埼玉県 防災情報メール　saitamaken@jijo.bosai.info

防災行政無線

防災行政無線は、市民の皆さまに緊急性のある情報を一斉に伝達・発信することにより、被害の防止や減少に役立てることを目的として放送しています。もし、放送が聞き取れなかったときは、以下の方法で確認することができます。

① 自動音声応答サービス
放送した内容を、電話で確認することができます。防災無線の音声がそのまま流れます。夜間や休日の放送を含め、すべての放送が確認できます。
【フリーダイヤル・無料】 0120-62-1934

② 防災ラジオ
防災行政無線の放送内容が確認できる防災ラジオを希望する全世帯に無償貸与しています。
AM/FM ラジオ受信中でも強制的に防災行政無線放送に切り替わります。

③ 市のホームページ
放送した内容（夜間や休日に放送したものを除く）をホームページ上で確認できます。
https://www.city.kazo.lg.jp/

災害用伝言ダイヤル 171

災害で電話がつながりにくい場合に、メッセージを録音・再生できる「声の伝言板」です。インターネットを利用する「web171」も利用できます。
171 または NTT 検索

災害用伝言板

大規模な災害が発生した場合に、各携帯電話会社から提供される災害用伝言板です。携帯電話やスマートフォンから安否情報などの登録・確認ができます。
各携帯電話会社のホームページをご確認ください。

ホームページ、SNS

※SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）

加須市公式ホームページ
https://www.city.kazo.lg.jp/

加須市公式X（旧Twitter）
アカウント名：kazocity_PR

Facebook｜加須市公式フェイスブック
アカウント名：加須市

LINE｜加須市公式ライン
ID：@kazocity

加須市役所
〒347-8501　埼玉県加須市三俣二丁目１番地１
電話：0480-62-1111（代）　https://www.city.kazo.lg.jp/

笑う かどには 福来る

令和7年発行

わが家の防災メモ

もしもの時に備えて

災害時に備えて、家族の中で、緊急時の連絡先や避難先についてのルールを決めておきましょう。

わが家の避難先と集合場所

わが家の避難先		家族の集合場所	

家族・親戚・知人などの連絡先

氏　　名	連絡先（勤務先・学校など）	電話番号	メ　モ（病歴など）

医療機関など

連絡先	電話番号

緊急連絡先など

連絡先	電話番号

「帰宅困難」に備えて

1. 災害時には携帯電話等が通じない可能性があるので、家族に身の安全を知らせるための手段を事前に考えておきましょう。
家以外の集合場所を決めておいたり、災害用伝言ダイヤルの使い方などを家族で確認しましょう。

2. 「帰宅困難」の状況になったら、むやみに歩いて帰ろうとせず、職場や外出先の安全な建物の中で状況が落ち着くまで待機しましょう。大勢が移動を始めると、道路にまで人があふれ危険であり、緊急車両も通れなくなります。

3. 「帰宅困難」や外出先で災害にあった時のことを考えて、下記の常時携行品を持ち歩くようにしましょう。
●ペットボトル飲料水　●予備バッテリー・充電器
●チョコやキャラメルなどの携行食料　●携帯ラジオ　●携帯トイレ
●マスク　●懐中電灯など　●保温シート　●笛・ホイッスル

水・食料の備蓄と災害用トイレ

実践しませんか？ローリングストック法

日ごろから常に災害用保存食を備蓄しておくことは、意外にハードルが高いものです。
家族全員に必要な量の判断が難しく、また、うっかり消費期限が過ぎてしまって廃棄、といったデメリットもあります。
日常の食材のストックと災害用の食料品とを分けずに、常に少し多めに一定量の食料品を家に備蓄しておく方法を**ローリングストック法**と言います。

ローリングストック法のながれ

ローリングストック法のポイントは、日常生活で消費しながら備蓄することです。食料等を一定量に保ちながら、消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることが目的です。

①古いものから使うこと
備蓄する食料が古くなってしまわないよう、必ず一番古いものから使うようにしましょう。新しいものを奥に配置し、手前の古いものから使っていく、というように、備蓄方法のルールを決めて上手に循環させることが大切です。

②使った分は必ず補充すること
ストックしているものはいつ食べても構いませんが、消費した分は必ず買い足すようにしましょう。補充を忘ったタイミングで災害が来る可能性もあります。消費した分の補充は必ず直後に行いましょう。

災害用トイレの備えを忘れずに

大きな地震が起こった際、地震で配管が壊れている可能性や断水のほか、トイレによっては停電で水が流せなくなるケースもあります。水が流せないと衛生上の問題があり、トイレを我慢するのは健康上よくないため、状況が分からない中トイレを使いたいときは、下記の「災害時のトイレのつくり方」を参考にして、安易にトイレの水を流さないようにしましょう。
災害時のトイレをつくるため、ビニール袋や凝固剤等を備蓄しましょう。

災害時のトイレのつくり方

1. 便座を上げて、便器にゴミ袋などをかぶせてテープでとめます。

2. 便座を下ろし、その上から携帯トイレを設置し、用をたします。

3. 吸水シートや凝固剤を入れます。凝固剤の代わりにペットシーツやオムツを使っても良いです。

4. 汚物袋を取り出し、袋の空気を抜いて、口をしっかりしばります。

5. 臭いが漏れないようにふた付きで密閉できる容器に入れ、自治体の収集方法に従い処理をします。

非常持ち出し品

非常持ち出し品チェック

もしもの災害時にすぐに避難できるよう非常持ち出し品を準備しておきましょう。自分や家族にとって必要なものを事前に用意をしておくと安心です。両手が使えるリュックなどに入れて玄関や寝室などに置いておきましょう。

☑ 万一の際に備えて、家庭では次のようなものを準備し、定期的にチェックをしておきましょう

□ 貴重品
- □ 現金（10円玉を含む）
- □ 健康保険証（コピーでも可）
- □ 預金通帳・印鑑
- □ 運転免許証（コピーでも可）
- □ 親戚・知人等の連絡先メモ
- □ マイナンバーカード良い
- □ 家族写真（家族とはぐれた時などに便利）

※重要書類はコピーや、必要事項をメモしたものを入れると良い

□ 情報収集用品
- □ 携帯ラジオ・防災ラジオ
- □ 乾電池
- □ 筆記用具（日光や雨に強いもの）
- □ スマートフォンや携帯電話の充電器・バッテリー

□ 非常食・飲料水
- □ 飲料水
- □ 乾パン・缶入りパン
- □ ゼリー飲料や栄養補助食品
- □ アレルギー対応食品
- □ チョコレート・あめなど

※食事ではなく、避難行動時のエネルギー補給ができるもの

□ 衣料品・防寒対策用品
- □ 雨具（レインコート・ポンチョ）
- □ 使い捨てカイロ
- □ レジャーシート・保温シート
- □ 着替え・防寒具

※雨などに濡れた場合に備えて、着替えは1セット分を用意

□ 避難用品
- □ ヘルメット・防災ずきん
- □ ホイッスル
- □ ヘッドライト・懐中電灯
- □ ハザードマップ・地図
- □ 底の厚い靴（登山靴やスニーカーなど紐で結ぶもの）
- □ 手袋・軍手（頑丈な作業用手袋や革手袋が良い）

□ 救急・衛生用品
- □ 絆創膏・消毒液
- □ マスク
- □ 包帯・ガーゼ・脱脂綿
- □ ビニール袋
- □ ピンセット・毛抜き・はさみ
- □ 体温計
- □ 常備薬（風邪薬・傷薬など）
- □ 持病薬（おくすり手帳や薬のメモ）
- □ アルコール除菌（シートやジェルなど）
- □ ティッシュ・ウェットティッシュ
- □ 携帯トイレ・生理用品

□ 個別必要品
- □ 粉ミルク・ほ乳びん・消毒剤
- □ 大人用紙おむつ・尿とりパッド
- □ ベビーフード・おやつ
- □ 介護用品
- □ 紙おむつ・おしりふき
- □ 予備メガネ・補聴器
- □ 絵本・おもちゃ
- □ 入れ歯・洗浄剤
- □ 抱っこひも・授乳用ポンチョ
- □ 携帯用杖
- □ 母子手帳（コピー）
- □ ペット用品

日常備蓄について

災害が発生した場合に備え、少なくても**3日間以上を自活**できるよう、食料品・飲料水・日用品などを多めに買い置きしておく**「日常備蓄」**で、安心も一緒に備えましょう。

常備薬について

日頃からお手元の常備薬を切らさないようにすることが、いつ来るかわからない災害への備えになります。家族の中に日常的に処方薬を必要としている方がいる場合は、３～７日分の予備を常に手元に置きつつ、ゆとりをもって医療機関等を受診するよう心がけましょう。